

市民病院だより

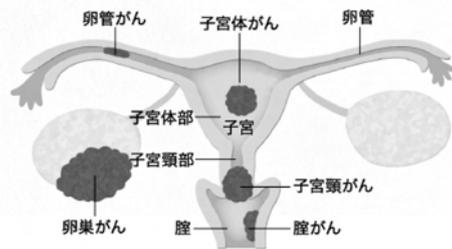
『子宮頸がんの 予防が可能に』



小城市民病院
産婦人科医師
松尾 憲人

い女性に子宮頸がんが増加しているのでしょうか。

図：子宮の構造と女性性器がんの種類



子宮頸がんの原因はヒトパ ピローマウイルス

三寒四温の季節、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。前回の「乳がん検診の重要性」に続いて、今回は「子宮頸がん」についてお話しします。子宮がんには子宮頸がんと子宮体がんの2種類がありますが、日本人女性では、子宮頸がんが約60%をしめております。

若い女性に増加している子 宮頸がん

子宮頸がんは子宮頸部（子宮の入り口）にできるがんです。好発年齢は30〜40歳代ですが、近年妊娠・出産を控えた20歳代で増加傾向となっています。では、なぜ若

子宮頸がんはほとんどがヒトパピローマウイルス（以下HPV）の感染が原因であることが分かっています。HPVは皮膚や粘膜の接触により、多くの場合が性行によって感染します。そのほとんどは免疫力で排除されますが、一部は持続感染となり、子宮頸がんの原因となっています。性交渉

が低年齢化しているなどの理由で、若い女性に子宮頸がんが増加しています。一方で、原因や発ガン過程が解明されたため、子宮頸がんは予防可能ながんとなりました。

子宮頸がん予防ワクチン

昨年末、HPVの感染を予防するワクチンが日本でも承認されました。一度のワクチン接種（抗体がでにくいため、半年の間に3回の接種が必要）により約20年間効果が持続すると期待されています。接種時期は性行為の経験がない10歳代前半が理想的で、このワクチン接種を全女性が受ければ、子宮頸がんの発症は約30%に減少すると考えられます。中でも、妊娠する前に子宮がんの治療のため子宮を摘出して妊娠ができなくなったり、幼い子供を残して亡くなられるという悲しい例は激減すると思われれます。

世界では100カ国以上で既にワクチン接種がなされていますが、副作用の報告はごくまれです。また、このワクチンは3回で数万円と高価ですが、産婦人科医として

は公的助成等の後押しを受け、早期に普及されるよう期待しております。

定期的な子宮頸がん検診を受けましょう

ワクチンは非常に効果的とはいえ、子宮頸がんの発症を100%防ぐことはできません。

子宮頸がんは初期の段階では自覚症状がありません。進行するに従って、不正出血、性交時出血、おりものの増加、下腹部痛などの症状が現れます。定期的な検診によってがんになる前の状態（異形成）で発見されることが多く、子宮を温存しての治療も可能な病気です。あなたの子宮と命を守るために、症状がなくても一年に一度、子宮頸がん検診を受けましょう。

無料クーポン券の使用期限は2月末までです

子宮頸がん検診無料クーポン券（特定年齢の方に配布）をお持ちの方は、この機会に早めに検診を受けましょう。

時間外受診をされる方へ

【問合せ】小城市民病院

急病等での時間外受診の場合は、必ず電話で宿日直医師の担当診療科をお問合せください。専門外の疾病の場合は、診察できませんのでご了承ください。
☎73-2161 ホームページ・アドレス <http://www.ogishimin-hp.jp/>